

一般社団法人朝霞地区薬剤師会

あさやくだより

第15号

(一社)朝霞地区薬剤師会
 発行人:広報委員長 細川 玄機
 〒351-0021朝霞市西弁財1-10-21-312号
 TEL:048-483-4125 FAX:048-483-4126
 asaka-ph@asakaph.or.jp

会長挨拶

いつも朝霞地区薬剤師会の活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。長引く新型コロナウイルス感染症の影響でまだまだ落ち着かない状況の中、皆様方には、2022年4月の報酬改定の準備にお忙しいのではないのでしょうか。

今回の改定については、すでに各方面から情報も入っていると思いますが、地区薬剤師会でも3月18日に研修会を企画いたしました。

予想していたとは言え、今回の改定はやはりかなり大きなもので、何よりもこれは2024年に向けた助走でしかないという事も肝に銘じる必要があると感じています。

今回の改定のポイントは、「対人業務の充実」、「対物業業務の効率化と高度化」、「地域の中で活躍する薬剤師・薬局」の3つであると考えます。

これまでの報酬の枠組を、ポイントの視点で組み換えた体系になり、調剤料は「調剤管理料」という対人業務と対物業業務として「薬剤調製料」に分かれました。

薬歴管理は対人業務に欠かせないツールとして「調剤管理料」、「服薬管理指導料」の両方で評価され、具体的な対人業務として「服薬管理指導料」に紐づく加算が見えてきます。服薬情報等提供料や調剤後薬剤管理指導加算などが、その例です。

また、地域での活躍は「地域支援加算」が4段階になり細かく評価されます。そしてこれら以外に、リフィル処方箋やオンライン服薬指導なども日常業務の中に組み込まれました。

まずは、今回の枠組みをしっかりと把握して、各薬局がきちんと加算が取れる仕組みを構築することが大切です。地域連携薬局や健康サポート薬局の認可もその延長線上にあるように思います。

地域連携という視点では、薬剤師会の役割も重要と考えています。現在、各市の協議体委員や委嘱委員は薬剤師会を通じて依頼が来ます。その一つがワクチン接種事業支援でした。また、医師会内に設置されている地域包括ケア支援室は、今後の連携が期待される部署です。今回の会報でも特集を組み、薬剤師会HPにもリンクを張りましたのでぜひご覧ください。

行政や団体から多くの委嘱や依頼を受け、それらについて会員が責任をもって継続的に担う体制を作れると良いと考えています。ただ、現在、多くの薬剤師は勤務者なので、異動や退職も考慮しておきたい気持ちもあり、もう少し仕組みを整える必要を感じます。次年度は、そのためにも執行部としての理事の増員を行い、同時に世代交代も進めたいと思っています。皆様、ご協力よろしくお願いたします。

(会長 畑中典子・株式会社かくの木)

ワクチン接種支援事業について (お礼)

昨年5月にスタートした令和3年度新型コロナワクチン集団接種支援事業は、2月26日(3回目のワクチン追加接種:和光市旧保健センターで実施)をもって終了しました。薬局業務等でお忙しい中、会員・非会員を問わずたくさんの方々がご参加くださったことに心より感謝申し上げます。(派遣人数等の報告は2頁参照)

この10か月間の取り組みは、手さぐりの状況の中、行政や他の医療スタッフと協議を重ねながらの日々でした。これほどの長期間、重大な事故もなく支援事業を遂行できたことは、皆様のご尽力の賜物だと強く感じています。慣れない薬液充填作業に従事する参加者を陰で支えて下さった薬局の皆さまにもこの場を借りて心からお礼を申し上げます。

4月からは和光市での5~11歳への接種支援事業へも薬剤師の派遣が決定しています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

(常務理事 清水 勝子・新倉健康薬局)



朝霞市から「感謝状」いただきました。

昨年6月から11月までの6か月間実施された朝霞市新型コロナワクチン集団接種事業への協力に対し、朝霞地区医師会、朝霞地区医師会立朝霞准看護学校と共に、朝霞市から感謝状をいただきました。

感謝状授与式:左から、朝霞地区薬剤師会大八木実副会長、畑中典子会長、富岡市長、朝霞地区医師会栗原友介朝霞支部長、青柳徹二理事、朝霞准看護学校長谷利子副校長、学生の松山恵理さん、小池希子さん。



令和3年度新型コロナワクチン集団接種支援事業総括

3市	会場数	実施日数	作業時間	薬剤師のべ派遣人数	接種人数
5月	1	8	219	79	2,553
6月	4	29	940	246	12,331
7月	4	42	1067	290	15,669
8月	3	22	706	195	10,686
9月	3	39	1156	325	19,632
10月	3	38	1349	351	22,978
11月	3	31	821	216	11,229
12月	1	3	38	10	439
1月	1	2	20	4	438
2月	1	10	210	60	3,671
計		224	6,524	1,776	99,626

昨年5月から今年2月までの10か月間実施したワクチン集団接種支援事業実績を表にまとめてみました。あらためて数字にしてみると、予想外の大きな数に驚きます。

各接種会場での最終日には市長やセンター長のご挨拶の中で地域の薬剤師がワクチンの調整や経過観察に係ったことでつつがなく初めてのワクチン集団接種という大きな事業を終えることが出来たとの感謝の言葉をいただきました。

行政からの謝礼は、協力薬剤師の時給、事務費等の諸経費を除き、今年度の大きな収入として薬剤師会に計上します。

(常務理事 清水 勝子・新倉健康薬局)

和光市保健センター、旧保健センター、朝霞市総合体育館、朝霞市産業文化センター、新座市役所の5会場で実施
5月、12月～2月は和光市のみ、8月は和光市、朝霞市の2市
薬剤師のべ派遣人数は、半日1コマ1名として計算



令和3年度研修会報告

令和3年度研修委員会は4回の研修会を計画しました。2月現在で3回の研修会を終えています。

第1回は「埼玉県委託による令和3年度ポリファーマシー対策事業について」オンライン研修会を行いました。

第2回はTMGあさか医療センター血液内科渡邊純一先生のご講演「外来治療を行う血液疾患 病態と薬物治療と注意点」について集合研修を開催しました。

第3回は埼玉医科大学病院井上勉先生のご講演「Up-to-date 慢性腎臓病診療」についてオンライン開催しました。

3月には、2022年度調剤報酬改定に備えてオンライン形式で4回目の研修会を開催します。

また、日本薬剤師研修センター研修シールが電子化に移行するため集合研修ではQRコードを使用し研修前、研修後に薬剤師IDを読み取って記録する方法となる予定です。詳しくは日本薬剤師研修センターのHPの「PECS」をご覧ください。

(副会長・研修委員長 須田 友子・須田薬局本店)

毎月の研修会情報はこちら!



地区薬剤師会 研修認定薬剤師 制度の電子化 ページ

日本薬剤師 研修センター PECSページ



「朝霞地区入退院支援ルール」の地域定着に向けて

朝霞地区医師会地域包括ケア支援室長 滝澤 義和
(朝霞地区医師会副会長・上野胃腸科)

医療と介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活するためには、病院と地域をつなぐ円滑な「入退院支援」「多職種協働による日常の療養生活の支援」「急変時の対応」「本人の望む場所での見取り」の体制整備が必要とされています。

当地区においては従前「入退院支援」について、病院関係者と在宅関係者に患者情報共有等のルールは特に明文化されずに運用されてきておりました。担当者が交代した際にルールが引き継がれず、運用が絶えるといった課題がありました。このことから、入退院支援に関して病院関係者と在宅関係者双方が合意したルールを明文化し、システムとして機能させることが必要と考え、令和2年10月に医療介護関係者34名からなる朝霞地区入退院支援ルール作成会議を立ち上げ、令和3年3月に手引きを作成することができました。

令和3年度にはこの手引きの普及啓発を図り、昨年末に普及状況の把握を目的に795の医療機関・介護事業所(うち薬

局156)にアンケート調査を実施しました。その結果は、回収率33%で、手引きの周知度は60%でした。ケアマネから病院への入院時の情報提供は、「良くある」が10%、「時々ある」50%、退院時ケアマネから医師や歯科医師、薬剤師への情報提供は「良くある」5%、「時々ある」が17.7%という残念な実態でした。また課題やご意見として、薬剤師の先生方からは「入退院時の薬薬連携が必要で病院薬剤師と薬局薬剤師との交流の機会が欲しい」「薬剤師も入退院情報が必要としていることを意識して欲しい」「久しぶりに来局された患者様から入院したという話を伺うことがあるので、患者様へのアナウンスが大切」等、多くの貴重なご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。更なる周知を図ってまいりたいと思います。

患者さんのために医療と介護の切れ目ない連携を目指して、薬剤師会の皆様にもこの手引きの運用を共有していただき、普及・活用にご協力くださいますようお願いいたします。

朝霞地区医師会ホームページ

地域包括ケア支援室のページをぜひご覧ください。

「相談業務」、「入退院支援ルール」、「在宅療養支援ベッド(後方支援ベッド)」、「MCS」について詳細な情報が掲載されています。「入退院支援ルールについて」のページには、手引きの他に23分間の動画キックオフメッセージがあり、「情報提供書類」や「周知用チラシ」のダウンロードもできます。地域での様式が統一されていると、関係機関は患者情報を把握しやすくなります。積極的に共通様式をご活用ください。



PCR検査等無料化事業

昨年12月28日よりPCR検査等無料化事業が開始されました。検査は抗原とPCRの2種類で、結果の有効期限は検査日を含め抗原が2日、PCRが4日です。判定結果について、抗原検査はその場で結果が出るため、検査結果通知書をお渡します。一方PCR検査は、当薬局では翌日午後検査会社からメールで連絡があり、その後ご本人に検査結果通知書をメールに添付して送ります。万一陽性だった場合は検査会社からメールに先立ち電話があり、速やかにご本人に医療機関への受診または受診・相談センターへ連絡、さらに受診の際は薬局の無料検査で陽性判定が出た旨を伝えるよう案内します(医療機関での検査料が無料になる)。

開始時は年末で帰省などを検討している方も多く、薬局への問い合わせ電話が多かったため、戸惑うこともありました。かくの木では3薬局が今回の事業に参加しており、日常業務への負担軽減のため、1月に予約や問い合わせ窓口を各薬局から本部に統一し、予約状況を共有することとしました。そうすることで薬局では予約された方の対応に集中できるので、

通常業務と平行していくうえでの効率化につながりました。しかし本部への問い合わせは多い日は70件、不安による相談も多くありました。また予約を受ける際、その方が今事業対象者かの判断(無症状、非濃厚接触者など)にも注意を払う必要があります。なかにはお断りするケースもあるため心苦しい事もあったと聞いています。しかし検査を受けた方から感謝のお言葉を頂くこともあり、大変と感じることもありますが、少しでもお役に立てた事、今回の事業に参加してよかったと思っています。検査結果の状況は、とくに2月から陽性の方がでてきておりますが、受付時や検査前の聞き取り、徹底した感染対策のもとで検査を行うことでとくに問題はありません。また現在は問い合わせも20件くらいに落ち着いてきております。

今後も内服薬(ラゲブリオ等)の取り扱いを含めた新型コロナ対策をみなさまと協力して取り組んでいきたいと思ひます。

(広報委員 磯村 和美・かくの木菅沢薬局)



おすすめの本

みんなのユニバーサル文章術
今すぐ役に立つ「最強」の日本語ライティングの世界

安田 峰俊著 (星海社新書/2022)



著者は、主に中国関連の情報を発信しているフリーライターです。この本では、SNSやLINEなどでの日本語の文章の書き方について、実用的なポイントをおさえて解説しています(文の長さ、改行の仕方、漢字とひらがなの使い分けなど)。

今の日本人は、数十年前とくらべて桁違いに文章を書く量が増えているという指摘が冒頭にあるのですが、名文ではなくても読みやすい文章を書く必要性が高まっているという主張は、たしかにそうだと思います。特に薬剤師は仕事としても文章を書く機会が多く、他人が読んで理解しやすい文章の書き方について、すべて鵜呑みにする必要はないまでも、ひととおりの目を通していてもよいのではないかと思います。

(広報委員 田代 健・地球堂薬局)

多様性の科学

マシュー・サイド著 (ディスカヴァー・トゥエンティワン/2021)



ダイバーシティという単語は以前からよく耳にしていますが、多様性については何となく理解している程度でした。この本では9.11など様々な事例を通して、組織が多様性を取り入れることがなぜ重要なのか分かりやすく説明されています。

多様性というといまだに差別問題や倫理的な問題の一部として語られることが多く、業績を上げる要因やイノベーションを起こす要因として取り上げられることは多くないようです。

特に興味深かったのは、これは集団や組織だけの問題ではなく、食事療法など現代科学の世界にも多様性を見過ごす危険が潜んでいるという点でした。

標準化されたものをそのまま受け入れるのではなく、実際に試してみて個々に適したものを選んでいくことの大切さを改めて考えさせられる内容でした。

(広報委員 酒井 清貴・なぎさ薬局あさか店)

コラム

サルコペニアと筋トレ

市のトレーニングルームに通っている。週に0~3回程度。準備の後、まずは腹筋と背筋である。これで腰痛が楽になる。次に肩周辺の強化だ。交通事故で傷めた右は、まだ弱いし時々痛い、と約30分、いくつかのマシンの上で自分の体をメンテナンスするのである。

まわりには、隆々と美しい筋肉をもった若者たちが汗をまみれている。『そうか、あんな筋肉も鍛えることで手に入るのかもしれない』と何かがささやく。普段より5キログラム上げてみよう、そしてついに10キログラム上げてみる。できるのである。やったー!!

次の日、やはり鎮痛テープのお世話になった。

当初のフレイル・サルコペニア予防のためを忘れた結果でした。



(広報委員 小暮 眞一郎・アサヒ堂薬局)

俳句を楽しむ



渡邊 みち草
(監事 渡邊 美知子)

道しるべ三色すみれに誘はれむ

開花早き桜の花の重たさや

水門の開くるや不意に田螺鳴く

たにし

ステイホームゆっくり膨らむ牡丹かな

春みぞれ感染症棟修羅場なり



編集後記

変異株による「第4波」、そして3度目の緊急事態宣言とともに始まった令和3年度は、会報の記事もほとんどがワクチン集団接種事業特集となりました。新年度は感染も落ち着いて、さらに役立つ記事、楽しい記事もお届けできればと願うばかりです。

さて、私の勤務する三原薬局では、薬局製剤製造業、製造販売業の許可をとり、7年前から製造販売を行っています。385ある製品の中、薬局製剤指針による処方番号外用薬62-①は比較的簡単に製造可能な製品です。販売名はU・E・Hクリームで、文字通り、尿素、ビタミンE(トコフェロール酢酸エステル)、親水クリームを配合、皮膚乾燥症、ひび、あかぎれ、しもやけに効能、効果があります。この時期大変好評で、例年ご購入くださる常連さんもいらっしゃるのですが、最近、この薬をつけると、こむら返りが治るとか、水虫が治るとか、ちょっと効能・効果とは違った目的で使っている方が何名かいることがわかりました。本人が効いているというものを否定することもできず、果たして、このまま使用していただいてもよいのか困惑しております。この効能、効果について説明できる方がいれば、ぜひご連絡ください。(理事・広報委員長 細川 玄機・三原薬局)

青年部部員 募集中♪

青年部案内チラシはHPにも掲載されています。会員、非会員、職域も問いません。同僚やお知り合いの薬剤師さんにもぜひお声がけください。

青年部
参加申し込みは
こちら➡



(一社) 朝霞地区薬剤師会

TEL : 048-483-4125

FAX : 048-483-4126

E-mail : asaka-ph@asakaph.or.jp

